

☆原発のない社会に生きる

―原発がなくても生きてゆけることを示そう―

☆危機感をあおる国と経済界

◆「原発を再稼働しなければ、産業界は大打撃を受け、日常生活も非常に不便になる」・・国と経済界は原発再稼働に向けこのように危機感をあおっています。
◆しかし、それは本当なのか？「モツタイナイ」の精神からほど遠い、無駄の多い贅沢な生活を変えようとしなない考えを前提にしているのではないか？

☆電力不足のピークはほんの二〜三時間

◆国と経済界は、原発を止めると二十四時間べったり不足するかのように言って危機感をあおっています。
◆しかし、原発を停止しても、本当に電気が足りなくなるのは、ある時期の一日のほんの二〜三時間なのです。この時間さえクリアすれば電力は足りります。

☆原発のコストは本当は安くない

◆また、原発は火力発電に比べ発電コストが安いと言われてきましたが、実際は決して安くないことが、このほど試算でわかりました。

(十月二五日、内閣府原子力委員会発表)

◆今までの原発の発電コストには、事故処理費、核燃料廃棄費用などが計上されていなかったのが安いのです。まともに計算すると、火力発電を上回る事は確かです。(さらに、今回の原子力委員会の試算には発電所建設費、安全保守費用、廃炉費用、放射性物質除染費用、国が負担してきた自治体交付金や技術開発費などが入っていません)

☆原発不要の社会実験を成功させよう

◆無駄の多い浪費生活を続けるため、危険と隣り合わせで、核燃料廃棄物の処理もできない社会(「トイレのない家」に住み続けたいですか？)

◆原発再稼働をやめれば来年3月には国内の原発はすべて停止することになります。これを機に、私たちは生活を見直し、社会も経済界も電気の無駄、贅沢を削って原発不要の社会実験を成功させようではありませんか。

◆そして原発がなくても生きてゆけることを示し、憲法第二十五条に謳われている安全で健康な社会と国作りをしようではありませんか。

二〇一一年十一月十三日(日) 第五三七回憲法を守る平和行進
浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇一―一五

★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合